

**留学先国名** : 中国

**留学先学校名** : 青島大学

**留学期間** : 平成 28 年 3 月 1 日 ~ 平成 29 年 1 月 20 日

留学を通して学んだ一番大きな事は「考える」事です。

留学前の私の大学生活は、サークルやアルバイト等、毎日が大変充実していました。これと決めた物は追求しないと気が済まない性格から、専攻している中国語を極めたいと思い、当然の様に留学に行きました。思い返すと、今までの私は考える間もなく目の前の出来事にがむしゃらに向き合い続けていました。

そんな私にとって、留学は、今一度立ち止まって自分と対話する、大変貴重な機会となりました。留学を開始した当初は、孤独感に押し潰されそうになりました。そんな私を助けてくれたのは、韓国人の友達です。青島大学の留学生は6～7割が韓国人で、日本人は各クラスに1名程しかいません。私は韓国文化に興味があった事から韓国との馴染みが深い青島を留学先として選んだのですが、最初はあまりの韓国人の多さに圧倒されてしまいました。しかも、韓国人留学生は、一般的に韓国人のみでの集団行動を好みます。その為、仲良くなるまでは苦勞をしました。積極的に交流を図った結果、友達は徐々に増え、結果として、韓国人のコミュニティ内に居場所を見出す事が出来ました。韓国人と踊ったダンスのステージは忘れられない思い出となり、この経験は、互いの国民性の長所、短所を受け入れ合って韓国という国を多角的に理解する助けとなりました。

もちろん、友達は韓国人のみではありません。留学を開始した当初、一番苦勞した事は、中国人の友達を見つける事でした。青島大学には、中国人学生との交流機会が殆ど用意されていません。その為、多くの留学生は中国人との交流機会がないまま留学を終えてしまいます。しかし私は、友達から紹介してもらったり、外国に興味がある中国人が集まる英語クラブに参加してみたり、日本語を勉強する中国人との交流会に参加してみたりと、興味を持った事は全て参加してみました。結果、中国人の友達は100人を超え、相互学習をしたり、友人の実家に一緒に帰省したり、中国人と接する機会は多くありました。

中国人との交流を通して、私は中国に対する偏見をぬぐい切れていなかった自分が恥ずかしくなりました。日本には、中国に悪印象を抱く人々が多くいます。私は今まで客観的に中国を捉えていたつもりでしたが、実際に感じた中国という国は、もっと人情に溢れた温かい国でした。一度仲良くなったら家族の様で、お節介焼きな中国人は、まるで大阪人でした。

私は青島で、韓国人、中国人のみならず、様々な国から来た、色々な価値観を持つ、多くの友達に出会いました。彼らと、家族や恋愛、友達の話から、将来、政治、宗教の話まで、多くを語り合いました。

彼らとの対話は、私の視野を多様に広げてくれました。また、日本で当たり前の様に持ち続けていた価値観は、中国という土地では当たり前ではなくなる現実に直面し、「当たり前」だと思っていた全てについて、私はもう一度自分の頭で考える様になりました。さらに、他人の目を気にせずに自分が本当にやりたい事をやっている人々と出会った事は、私に衝撃を与えました。今までの人生においても自分なりに考えて行

動を選択してきたつもりでしたが、優等生的な模範解答ではなく、もっと自分が納得出来る選択をすべきだと思い、今までの自分の価値観が果たして本当に正しかったのか、悩む様になりました。私は、これまで歩んできた人生、現在の私、これからどのような私になりたいか、生まれて初めて真剣に考えました。

悩んだ結果、得た物は多くありました。まず、本音を語り合い、支え合える友達です。自分について悩んだ時は、クラスメイトの韓国人に相談しました。また、韓国人のルームメイトと何時間も夜遅くまで語り合い、睡眠不足になる事もありました。そして、日本にいる友達の有難さも改めて感じました。留学中、中国、日本の友達の優しさに何度救われた事かわかりません。そして、将来のビジョンが明確になりました。自分について悩み続けた結果、自分がどういう人間なのか、言葉に出来る様になりました。私には、留学中に日本の製品や技術、サービスは素晴らしいと言ってもらった経験、そして、音楽を通して韓国に関心を持った自身の経験から、日本の物を通して、日本ファンを増やし、日本と海外の友好関係を築きたいという夢があります。就職活動を控えたこの時期に、自分について今一度振り返るきっかけをいただいた事に、心から感謝しています。

留学は、決して楽しい事ではありません。私自身、言語面から性格面まで、自分の未熟さをここまで痛感した事は初めてでした。自分に不甲斐なさを感じる事ばかりで、悔しくて眠れなかった事もありました。また、日本人であるから、大学生であるから、女であるから等の理由で理不尽な扱いを受けた事も初めてで、憤りを感じました。しかし、その悔しさは、今の私にとって、頑張り続ける原動力となっています。今の私は未熟です。しかし、留学を通して、悩んで考えて、前よりも自分らしい選択が出来る様になりました。これから社会へ出ていきますが、日本、そして大阪と海外の架け橋になれる様、更なる努力を続けたいです。